川村学園女子大学研究紀要　第11巻　第2号　121頁―145頁　2000年

就職試験における保育者像について

栗　原　泰　子

The Image of Nursery and Kindergarten Teacher in Employment Examination

Yasuko KURIHARA

要　約

教育課程審議会は現代の社会の様々な変化に対応する「生きる力」の教育を目指して，幼稚園から高等学校までの教育課程の改訂を行った。これを受けて「幼稚園教育要領」は平成12年度より，それを受けて「保育所保育指針」の改訂も行われることになっている。

本研究は幼稚園や保育所における保育サービスの多様化の現状を明らかにすることと，保育現場が求める保育者像を明らかにすることを目的として，東京，愛知，岐阜，徳島の4地区で質問紙調査を行った結果についての報告である。

少子化によって，幼稚園の保育時間の延長や，保育所の教育内容の充実，夜間保育など，ともに多様な保育サービスを展開してきている。そして，そこで求められる保育者像も多様になってきている。地域差はみられるが，求められている保育者像については，人格的な側面のみならず，専門的な知識も必要とする傾向がみられることが明らかになった。そして，このような状況における保育者養成のあり方についても検討を加えた。

キーワード：就職試験，幼稚園，保育所，保育者像

1. はじめに

現在，日本の保育は大きく分けて，幼稚園と保育所の2つの施設が担うようになっている。これらの施設は，それぞれ監督官庁が異なり，幼稚園は学校の1種として，文部省が監督し，また保育所は児童福祉施設として厚生省の管轄のもとに置かれている。しかし，社会の少子化現象や，女性の社会進出に伴い，これらの施設に対しては，大きな変革が迫られている。

「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」の改訂等により，幼稚園においては，預かり保育や，延長保育などの保育時間の延長などの，運営の弾力化が求められ，また保育所に対しては，幼稚園に通園する幼児の該当年齢に対する教育の要請などが求められるようになってきているのである。

以上のようなそれぞれの施設において求められることが変化していることに伴い，当然そこで働く保育者に求められるものも変化してくると思われる。

2. 研究目的

本研究においては，幼稚園や保育園における保育サービスがどのように変化しようとしているのかを明らかにするとともに，これらの多様化する保育サービスに，幼稚園や保育所はどのように対応しているか，その現状を明らかにすることとする。そして，保育現場で実際の行われた就職試験の内容から，求められる保育者像を明らかにすることとする。

3. 研究方法

質問紙調査を東京，名古屋，岐阜，徳島の4つの地域の幼稚園・保育所を対象に行った。各地区の調査対象園は以下の通りである。

・東京―23区の私立幼稚園保育所各50園
・愛知―名古屋市内の私立幼稚園・保育所各50園
・岐阜―岐阜市を中心に私立幼稚園・保育所から各50園
・徳島―県内の私立幼稚園13園・私立保育所59園

全体の回収率は幼稚園41.7％，保育所48.8％，全体で45.7％であった。

表1　回収数

	東　京	名古屋	岐　阜	徳　島	計
幼稚園	16	19	27	6	68
保育所	19	20	24	38	101
幼＋保			1		1

調査時期　1997年11月

4. 結果及び考察

(1) 保育サービスの現状

選択肢は以下の8つである。

① 延長保育，預かり保育

② 一時保育

③ 夜間保育

④ 統合保育（障害児の受け入れ）

⑤ 開放保育（定期的に地域の母子に園を開放する）

⑥ 音楽，体育，英語などの特別教室（特別講師による）

⑦ 縦割り保育（常時，異年齢児で編成したクラスである）

⑧ 縦割り保育（定期的に，異年齢児で編成したクラスである）

これらの項目に○のうち該当するものを選択してもらった。○の数については限定していない。

集計にあたっては，それぞれの地域で上記の保育サービスの示す割合を算出し，その割合で比較を行った。

(2) 幼稚園における保育サービス

それぞれの地域ごとの幼稚園における保育サービスの実状は，表2の通りである。重複回答があるために合計の数が調査した園の数よりも多くなっている。

表2　幼稚園における保育サービス

	東京N＝16		名古屋N＝19		岐阜N＝27		徳島N＝6		全体N＝68	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
延長・預かり保育	7	44	8	42	15	56	3	50	33	49
一時保育	0	0	0	0	1	4	0	0	1	1
夜間保育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合保育	5	31	6	32	7	26	3	50	26	31
開放保育	4	25	1	5	3	11	3	50	11	16
特別保育	8	50	14	74	18	67	4	67	44	65
常時縦割り	0	0	1	5	2	7	1	17	4	6
定期縦割り	1	6	4	21	14	52	0	0	19	28
合　計	25	156	34	179	60	223	14	234	133	196

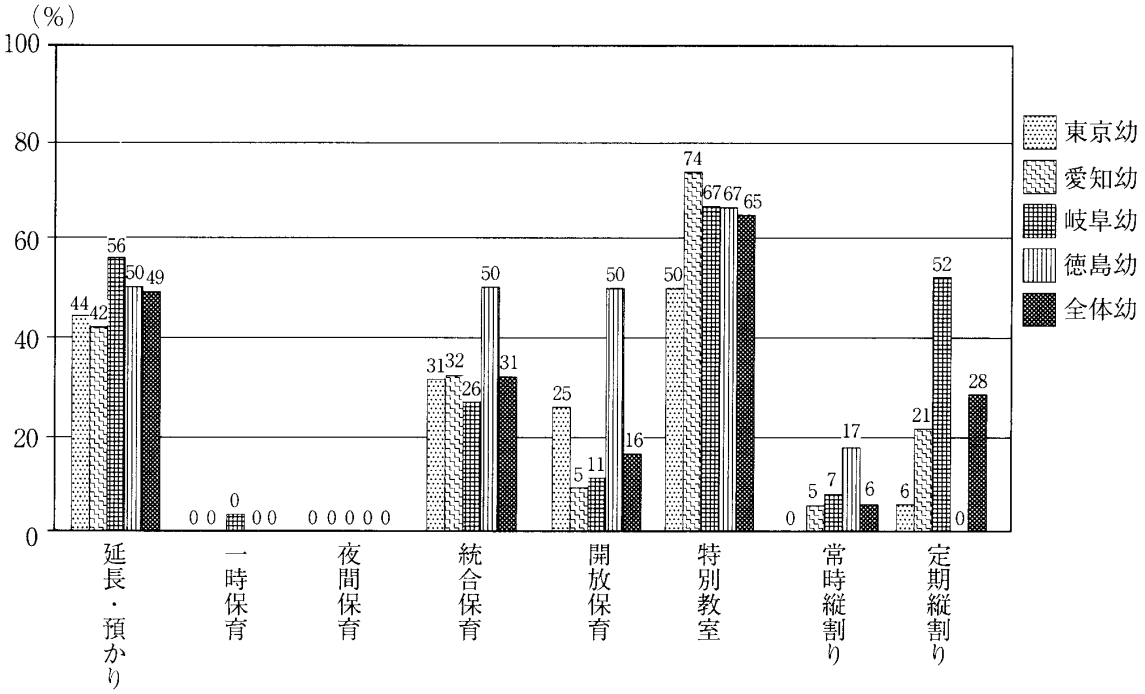

図1　幼稚園における保育サービス

調査した項目の中で，一番高い割合を示したものは，「⑥音楽，体育，英語などの特別教室」であった。東京では50％，名古屋では74％，岐阜，徳島ともに67％となっている。これは，幼稚園に子どもを通わせている親たちが，幼稚園の保育が終わったあとも，何らかの教育を受けさせたいという思いの表れであると思われる。その親たちのニーズに応える形でこのような特別講師による特別教室が開かれているのであろう。特に名古屋地区では，幼稚園の4園に3園はこの特別教室を行っており，他の地域に比べると，この点が特徴的であるといえる。

次に高い割合を示したのは，「①延長保育」である。これは，保育時間を延長して保育を行うもので，幼児教育を幼稚園に委託したいという親たちの気持ちの表れであるとも受け取れる。この項目には地域の差は余り見られず，全体の半分程度の幼稚園では現在延長保育を行っている。幼稚園が社会の変化に対応して存続していくためにも，延長保育はこれからますます増加していくものと考えられる。

3番目に多く行われている保育サービスは，「④統合保育」である。これは保育サービスというカテゴリーには入らないであろうが，徳島においては50％，他の地域では30％程度の幼稚園でこの統合保育を行っていた。

地域の差が大きく見られる項目としては，「⑤開放保育」，「⑧定期的な縦割り保育」があげられる。開放保育は，徳島で50％という高い割合を示し，逆に名古屋では5％となっている。

また，定期的な縦割り保育は岐阜が52％であるが，徳島では全く行われていないということがわかる。

幼稚園という性格上「② 一時保育」「③ 夜間保育」という項目の回答が無いというのは当然の結果であると思われる。

(3) 幼稚園の保育サービス別にみられる地域の特徴

次に，それぞれの保育サービスごとに，調査地域がどの程度その保育形態を実施しているかの状況についてみていくことにする。

結果は，図2の通りである。

6つの保育サービスの中で全く実施していない地域がある項目は縦割り保育の項目である。常時縦割り保育を実施していないのは，東京であり，定期的な縦割り保育を実施していないのは，徳島であった。

全体的にみると，色々な保育サービスを多く取り入れている地域は，岐阜であり，特に定期的な縦割り保育は，他の地域に比べると高い実施率となっている。常時縦割り保育を実施している率も，全体の半分が岐阜であり，縦割り保育を積極的に取り入れているということが岐阜の特徴であるということができる。

また延長保育や，特別教室なども全体の4割以上を岐阜県が占めており，積極的に親からの保育ニーズに応えていることが伺える。この縦割り保育というのは，保育時間内に行われてい

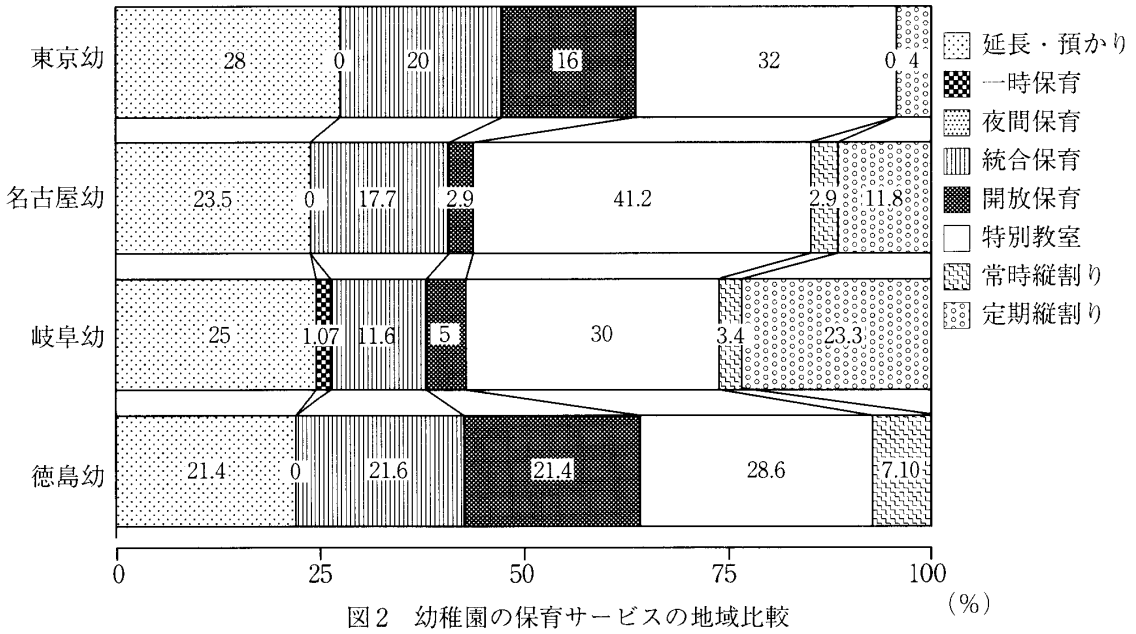

図2　幼稚園の保育サービスの地域比較

るものである。一方，保育時間外あるいは，標準的な保育時間である4時間を超えて保育を行っているものとしては，延長保育，開放保育，特別教室などがあげられる。徳島地域では，延長保育や特別教室などが他の地域に比べて実施率が低くなっている。また，開放保育は名古屋で実施率が低くなっているのが，特徴的ではあるが，全体的にこれらの保育形態はどの地域においてもみられるものであった。

(4) 保育所における保育サービス

保育所における保育サービスの調査結果は以下の通りである。

一番実施されている保育サービスは「延長保育」であり，これはどの地域においても高い割合を示している。これは，保育所における保育時間8時間を超えて乳幼児を預かるサービスである。早朝あるいは，夕方などの保育時間の延長は，働く女性の増加や，職場への通勤時間などを考えると当然求められてきたものであろう。母親が働く場合，保育所を自宅の近くで選ぶか，職場の近くで選ぶかという問題があるが，多くの母親は自宅の近くの保育所に子どもを預け，そこから通勤するという形をとっている。それは，通勤時間を子どもと共に移動するよりは，子どもと一緒に家を出てまず保育所に子どもを預け，そこから自分が出勤するという形の方が，親子双方に負担がかからないと考えるからであろう。延長保育は岐阜で88％の保育所が行っており，そのニーズは高いと考えられる。

次に高い割合を示しているのは，「統合保育」である。これは名古屋で高い割合を示してい

表3　保育所における保育サービス

	東京 N＝19		名古屋 N＝20		岐阜 N＝24		徳島 N＝38		全体 N＝101	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
延長・預かり保育	10	53	14	70	22	88	29	76	75	75
一時保育	2	11	7	35	8	32	9	24	26	26
夜間保育	0	0	0	0	0	0	1	3	1	1
総合保育	11	58	14	70	12	48	16	42	53	52
開放保育	2	11	2	10	6	24	16	42	26	26
特別保育	7	37	7	35	12	48	4	11	30	29
常時縦割り	4	21	1	5	1	4	9	24	15	15
定期縦割り	8	42	7	35	11	44	8	21	34	33
合　計	44	233	52	260	72	288	92	243	260	255

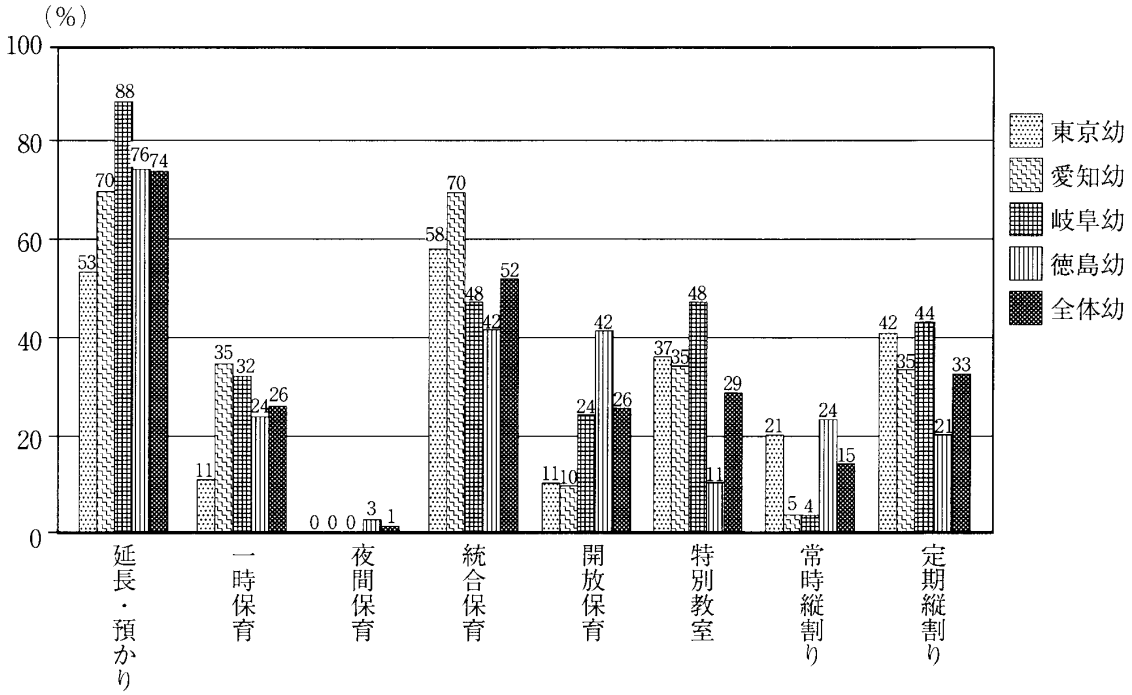

図3　保育所における保育サービス

る。全体的に約半数の保育所でこの統合保育を実施しており，母親が働く場合を考えると，障害をもつ子どもの入所先は限定されてしまうために，そのニーズが高まっているためであろうことが考えられる。

以上の2つの項目が半数以上の保育所が実施している保育サービスであり，その他「特別教室」「定期的な縦割り保育」というものがそれに続いている。特別教室については，保育所においても教育の機能を充実させていこうという考え方が親にも広まってきていることの表れであり，長時間保育を行っている中で，その中にこれらの活動が組み入れられる形を取っているものと思われる。

また，定期的な縦割り保育は，乳児から就学前の幼児までという幅広い年齢層の子どもたちがいるという点を生かして，取り入れられているものと考えられ，これは幼稚園に比べると高い割合を示している。

また「一時保育」については，親にとって緊急な場合に必要となったり，継続的に「保育に欠ける状態」にはならないような場合に必要となるものである。東京以外の地域で全体の1/4から1/3の施設でこの取組がなされている。この一時保育については，今後需要の増加が予想される。

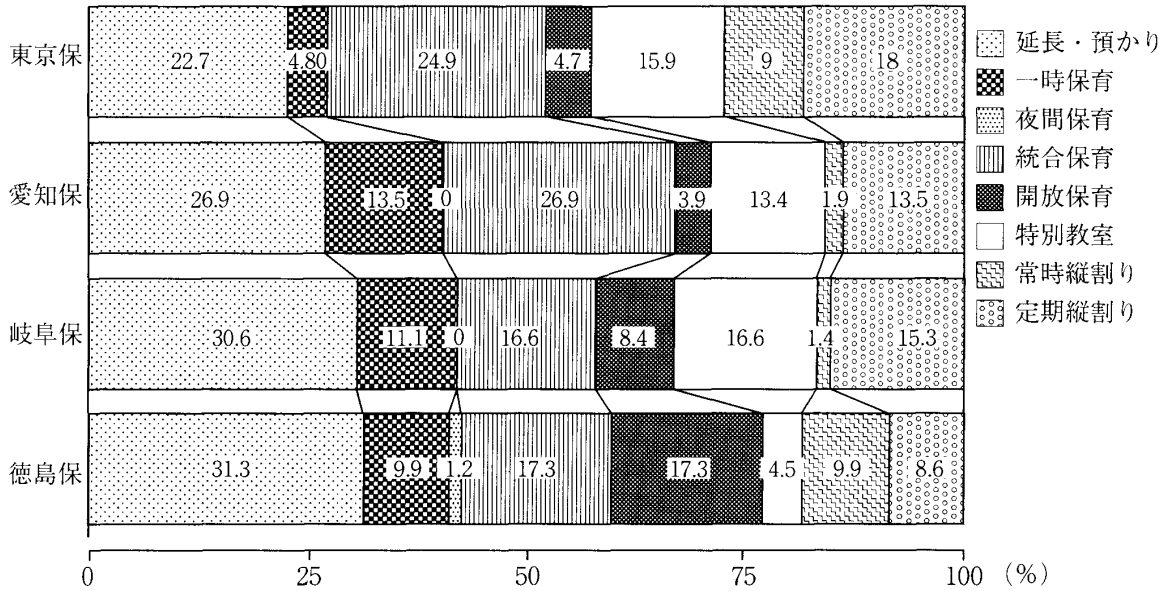

図4　保育所の保育サービスの地域比較

(5) 保育サービス別にみられる地域の特徴

それぞれの保育サービスが地域によってどの程度実施されているかを表したものが図4である。

「夜間保育」については，今回の調査で実施していると答えた保育所が1カ所であったので，徳島が100％となっているが，その実施率はまだまだ低いものであるといえる。

その他の保育サービスはどの地域にもみられている。

地域に特徴についてみてみると，徳島地域がいろいろな保育サービスを行って保育所が多いことがわかる。「開放保育」は全体の48％をしめているし，また「常時縦割り保育」をしている保育所も全体の44％を占めている。

比較的保育サービスが行われていないのは，東京であり，「一時保育」や「開放保育」などは，全体の1割程度になっている。この傾向は名古屋においても同じように見られ，都市部においては，まだまだこういった保育サービスが充実していく余地があることと考えられる。

(6) 幼稚園と保育所の比較

幼稚園と保育所の保育サービスについて比較してみると，次のようなことが言える（図5参照）。

まず第一に，施設の性格上，幼稚園においては，「一時保育」や，「夜間保育」はみられないこと。そして幼稚園という学校の1種として幼児教育を行う場であるという認識が親たちにもあ

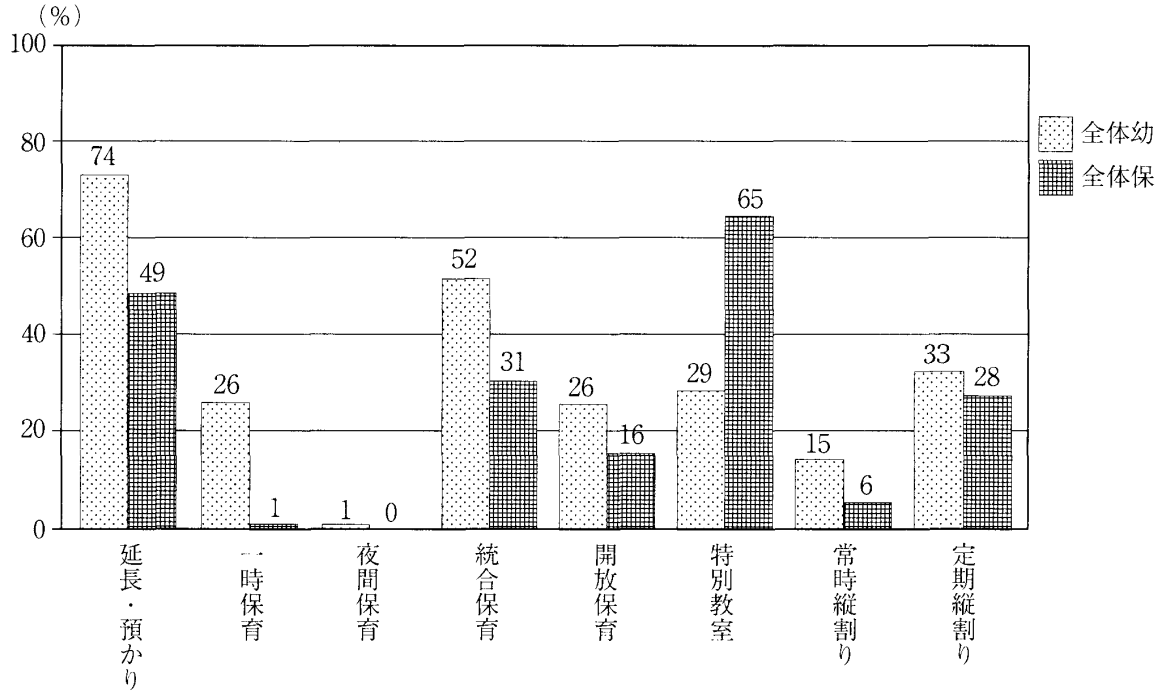

図5　保育サービスの幼保比較

るのか,「特別教室」の実施率がどの地域においても高い割合でみられることである。これは,幼児教育を1つの施設の中で行うことを期待する親たちが多くみられることの反映であろう。

逆に「一時保育」は保育所においてみられるものであるが,以前のように措置されて子どもが入所するという形から,親たちが保育所を選んで子どもを入所させるという形へと,保育所への入所の手続きの変革もあり,それぞれの保育所が独自に乳幼児を獲得していかなければならないという現状を考えると,もっと増加していくものと考えられる。親たちが自由に保育所を選べるということになれば,今回の調査ではほとんど実施している保育所がなかった夜間保育なども多くの保育所で行われるようになるであろうし,「特別教室」のようなものも増加していくことが予想される。

今後の幼児教育のあり方については,幼稚園,保育所ともに新しい時代を迎えようとしている。平成12年に幼稚園教育要領が改訂され,それとともに保育所保育指針も改訂されようとしている。また,少子化の時代を迎え,子どもたちをそれぞれの施設でいかに獲得するかという保育サービスへの取り組みもそれぞれの施設で積極的に行われてくるであろう。幼稚園においては,預かり保育や特別教室の充実,園庭・園舎の開放などの他に幼児教育センターとしての機能などもあわせて持つようになってくるであろう。一方保育所の方でも,それまで自治体

が子どもを措置して保育所に入所させるというような仕組みがなくなり，親が自由に保育所を選べるようになった。そのために，保育所それぞれが特色のある保育サービスを行うことで，子どもを獲得していくという方向が出てきている。また，幼稚園と保育所の合築によるそれぞれの保育の機能を補完しあって，子どもを獲得することもできるようになってきた。以上のように考えると，保育サービスはますます充実していくことが考えられる。

2. 求められる保育者像

保育サービスが多様化していくことによって，そこに求められる保育者像も変化していくであろう。幼稚園や保育所の現場では，どのような保育者を求めているのであろうか。次にその調査結果をみていくこととする。

(1) 調査の概要

面接についての調査で求められる保育者像を明らかにした。質問では，保育者を採用する際に面接を行ったかどうか。その面接の形式そして，面接時に重要視する項目について選択肢の中から選ぶというものである。選択肢は次の8つである。

① 健康状態はよいか
② 礼儀や言葉使いはよいか
③ 表情や話し方が明るく生き生きとしているか
④ 保育者として意欲的に取り組もうとしているか
⑤ 保育者として専門的な知識や考え方を身に付けているか
⑥ 充実した学生生活を過ごしているか
⑦ 奉仕の精神や感謝の心をもっているか
⑧ その他（自由記述）

これらの8項目のうち，任意の3項目を選択してもらい，それを1，2，3の順位をつけてもらった。

(2) 幼稚園における求められる保育者像

幼稚園における面接試験の結果は次の通りである。

採用試験において，面接を実施しないと回答した園はほとんどなかった。面接形態は個人面接が9割を占め，残りの1割がグループ面接であった。このことから，幼稚園側では，採用に

表4　幼稚園における面接内容

				東京N＝16		愛知N＝29		岐阜N＝27		徳島N＝6		全体N＝68	
				N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
面接なし				0	0	0	0	1	4	0	0	1	1
面接あり	面接形態	個人面接		16	100	17	89	23	85	5	83	61	90
		グループ面接		0	0	3	16	6	22	0	0	9	13
		グループ討論方式		1	0	0	0	1	4	0	0	1	1
	重要視する事項	① 健康状態	1位	8	50	6	38	11	41	1	17	26	38
			2位	0	0	3	19	1	4	0	0	4	6
			3位	1	6	1	6	2	7	0	0	4	6
		② 礼儀や言葉使い	1位	1	6	2	13	5	19	0	0	8	12
			2位	2	13	2	13	4	15	1	17	9	13
			3位	1	6	2	13	4	15	2	33	9	13
		③ 表情や話し方	1位	5	31	5	31	5	19	2	33	17	25
			2位	8	50	5	31	12	44	2	33	27	40
			3位	2	13	2	13	5	19	0	0	9	13
		④ 意欲的な取り組	1位	0	0	1	6	3	11	1	17	5	7
			2位	4	25	5	31	5	19	1	17	15	34
			3位	6	38	4	25	8	30	0	0	18	26
		⑤ 専門的な知識	1位	1	6	0	0	0	0	0	0	1	1
			2位	1	6	2	13	0	0	0	0	3	4
			3位	0	0	1	6	2	7	2	33	5	7
		⑥ 充実した学生生活	1位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2位	0	0	0	0	1	4	0	0	1	1
			3位	3	19	1	6	0	0	0	0	4	6
		⑦ 奉仕の精神	1位	0	0	3	19	0	0	0	0	3	4
			2位	0	0	0	0	1	4	0	0	1	1
			3位	1	6	4	4	2	7	0	0	7	10
		⑧ その他	1位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			3位	1	6	1	6	1	4	0	0	3	4

あたって，個人を重視していることがわかる。面接によって，その学生が保育者として適しているのか直接話をし，態度をみて判断し，自分たちの同僚として，あるいは保育者としての資質や能力を見極めようという意図をそこに読みとることができる。

面接で重要視する事項として第1位に上げられている項目は以下の通りである（図5参照）。

東京，名古屋，岐阜ともに「健康状態」を重要視し，それを第1位に挙げている。東京では，50％，岐阜は41％　名古屋は38％となっている。やはり保育者の採用にあたっては，欠勤することなく健康な状態で保育にあたってほしいという園側の希望の表れであろう。徳島だけは，「健康状態」よりも「表情や話し方」を第1位にあげているが，この地域では幼稚園からの回答数が少ないために，この数値が代表的なものとはいえないということも考えられる。

この「表情や話し方」については，東京，名古屋，岐阜も健康に次に重要視する事項としてあげている。全体的に同じような傾向を示しているのは以上の事項についてである。

次に地域の特徴についてみてみると，東京の幼稚園では，専門的な知識や考え方を身に付けてきているかという事項を第一位にあげている園がわずかにみられるが，他の地域ではこの事項を第1位に選択している園はみられない。また，名古屋の幼稚園では，奉仕の精神や感謝の心をもっているかという事項が全体の19％の幼稚園で重要視されているが，この事項については，他の地域では全く選択されていない。

第2位に選択された事項について次にみていくことにする。（図7参照）

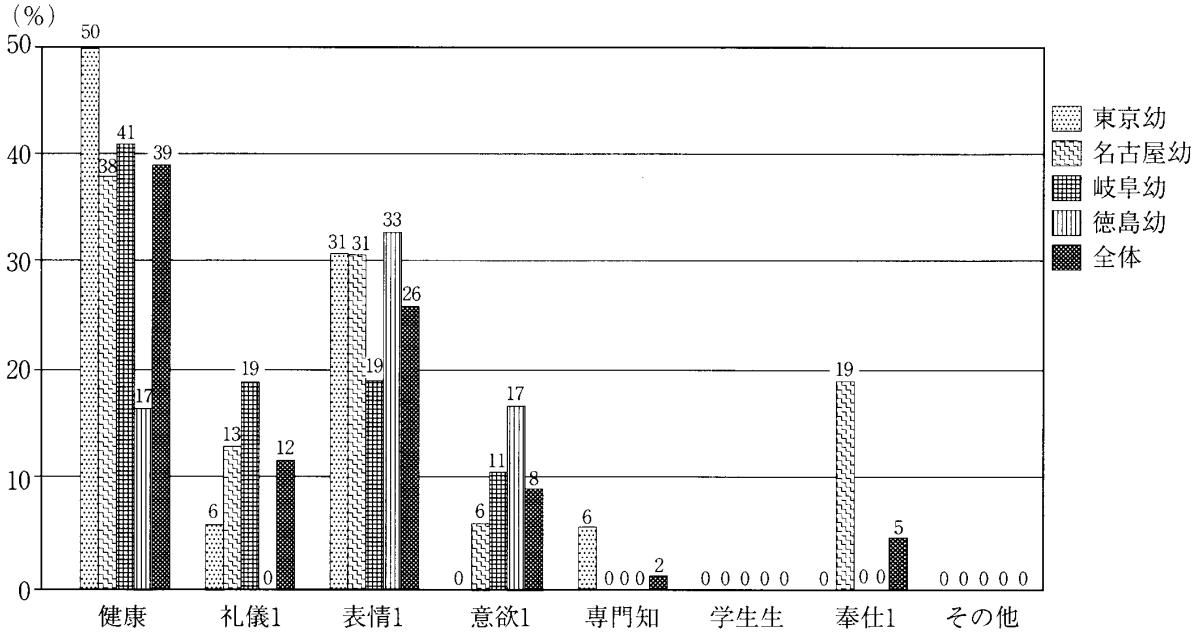

図6　面接で重要視する事項（第1位）：幼稚園

この結果から，「表情や話し方が明るく生き生きしているか」という事項がどの地域も重要視されていることがわかる。東京では50％，岐阜44％，名古屋，徳島がそれぞれ33％となっている。この項目は，保育者像の代表的な特性を表している項目ともいえ，やはり明るいイメージ゛の保育者像を園側で求めていることの表れであると考えられる。重要視することの第1位の中で，東京のみがわずかに挙げていた「専門的な知識」については，東京，名古屋の幼稚園が挙げている。この事項については，岐阜や徳島の幼稚園ではここでも全く選択されていない。また，岐阜の幼稚園では，「充実した学生生活」を過ごしていたかどうかという点をわずかであるが考慮していることがわかる。

第3位に選択された事項については，以下の通りである。(図8参照)

東京，名古屋，岐阜ともに「保育者として意欲的に取り組もうとしているか」が多く選択されている。これは，健康で明るくそして，意欲的であるという保育者像が求められているということであろう。この第3位に上げる事項になってくると，東京，名古屋も「⑥充実した学生生活をすごしているか」ということが考慮されていたり，名古屋や徳島，岐阜で，「⑤保育者としての専門的な知識や考え方を身に付けているか」という事項が選択されている。

次に項目ごとに，第1～3位の選択のされ方と，項目全体の選択された割合についてみていく。

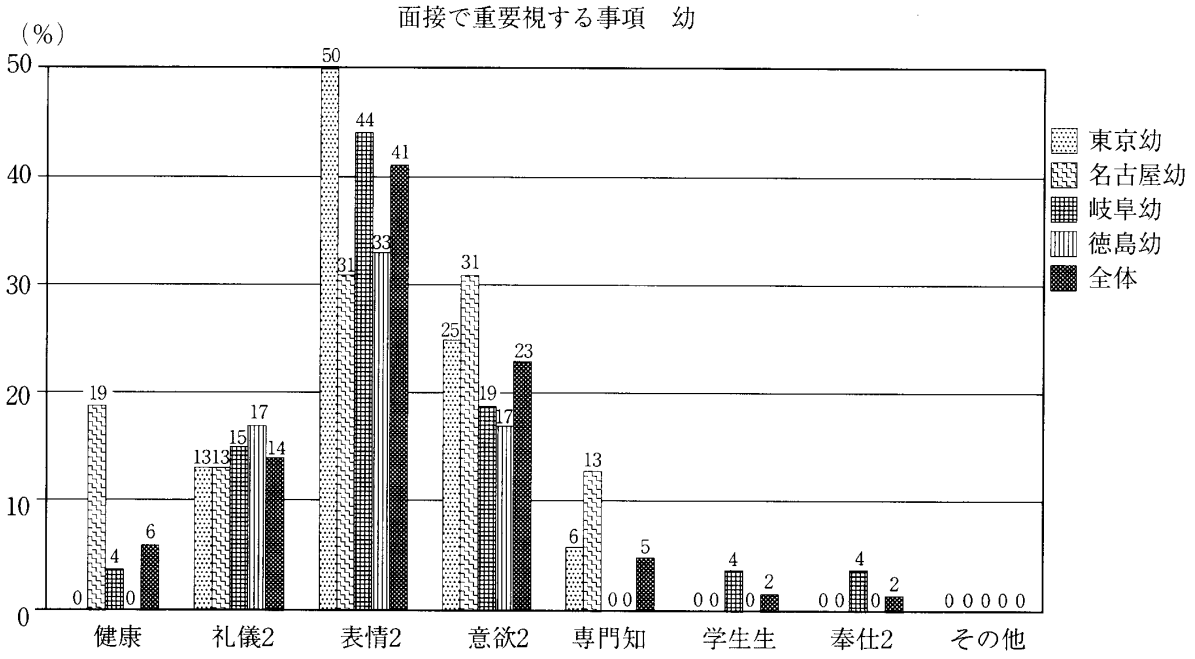

図7　面接で重要視する事項（第2位）：幼稚園

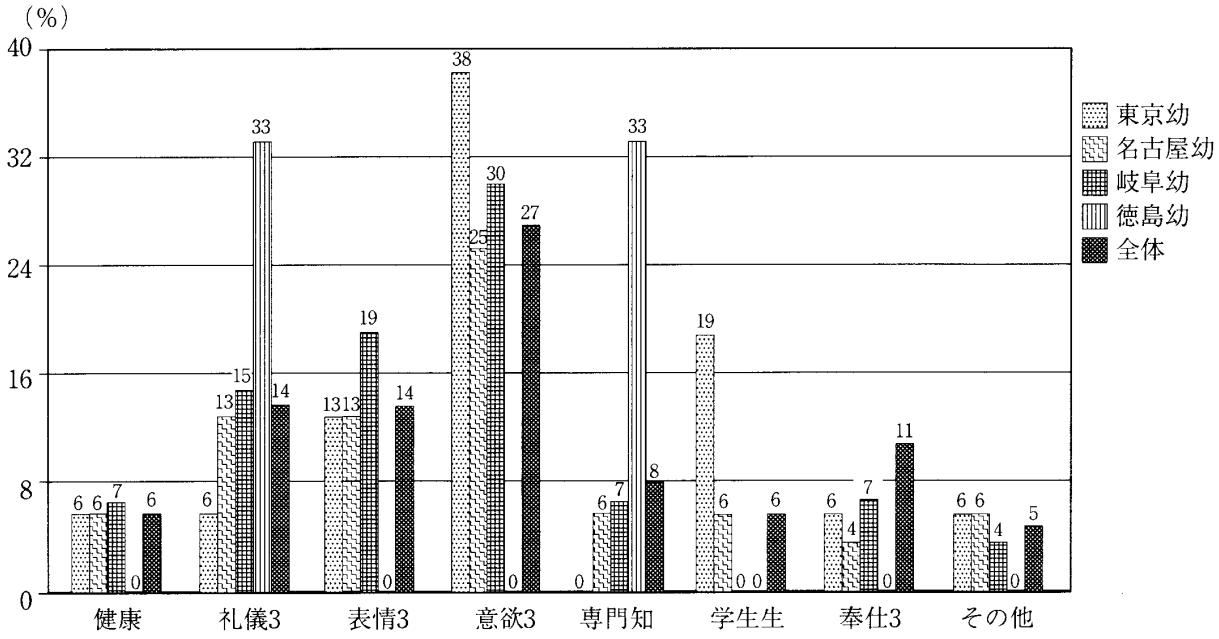

図8　面接で重要視する事項（第3位）：幼稚園

①「健康状態」

この項目は最も大切なことだとして，第1位に上げている地域が多くみられた。しかし，第1～3位までにこの項目を選んでいる幼稚園の割合をみてみると，この「健康状態」は，全体

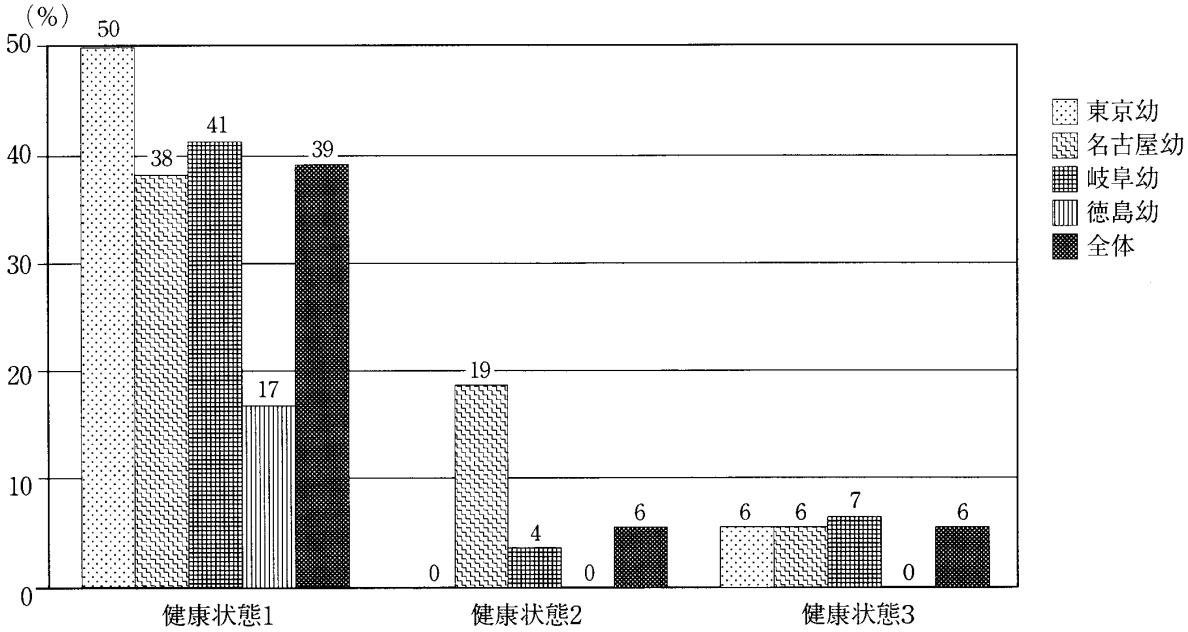

図9　面接で重要視する事項①「健康状態」：幼稚園

の3番目の選択率となっている。それは図を見てみるとわかるのだが，第1位に選んでいる割合は高いのであるが，第2位，第3位に選択する幼稚園の割合が低いからである。このような結果になった理由としては，健康については，面接を受ける前提条件であり，面接の場であえて健康について云々する必要を感じていない現場が多いとおもわれること，他の選択肢の中に健康状態以外に3つ選択したい項目があったためということも考えられる。

②「礼儀や言葉使い」

この項目は，徳島では第1位に選択されてはいないが，その他の地域では大体同じぐらいの割合で第1～3位の選択がなされている。選択された総数の割合は全体で40％となっており，岐阜，徳島で全体の半数程度となっている。東京の幼稚園ではあまり重視されていないことがこの図から読みとれる。

面接を行う際には，この礼儀や言葉使いはおのずとその中に表れてくるものである。それをあえて重要視するかどうかは判断の分かれるところであろう。また，採用試験の面接にあたっては，受験者もこの礼儀や言葉使いには非常に気を使っているであろうことも考えられる。

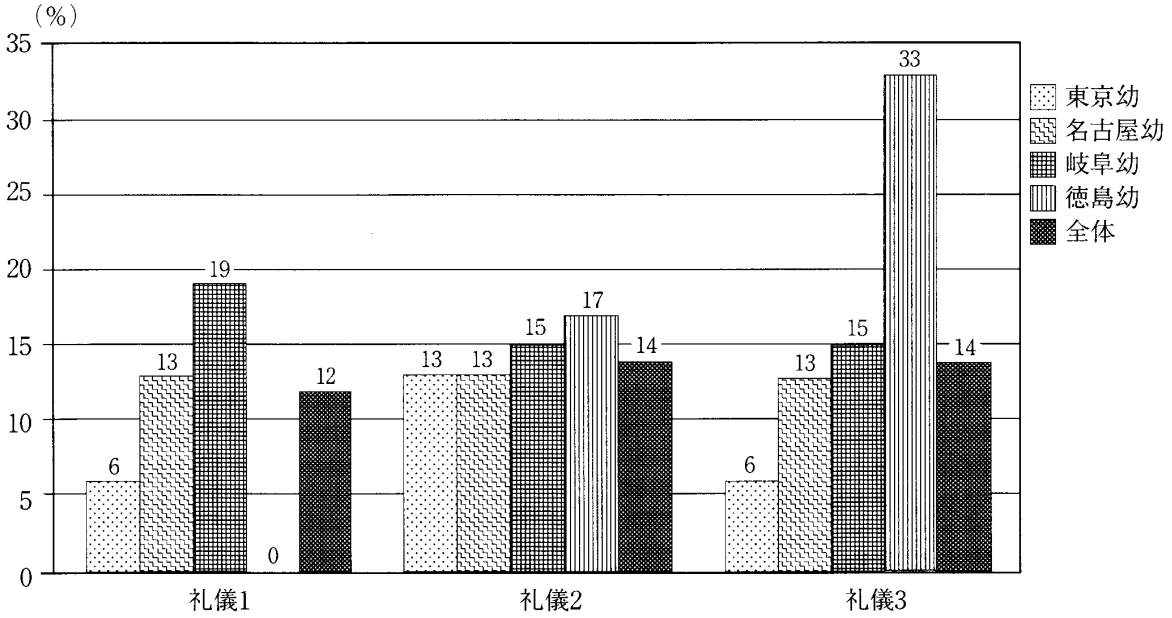

図10　面接で重要視する事項②「礼儀や言葉使い：幼稚園」

③「表情や話し方」

第1～3位までをトータルすると，幼稚園において選択される割合の最も高かったのは，この「表情や話し方が明るく生き生きしているか」という項目である。第1に重視されるのでは

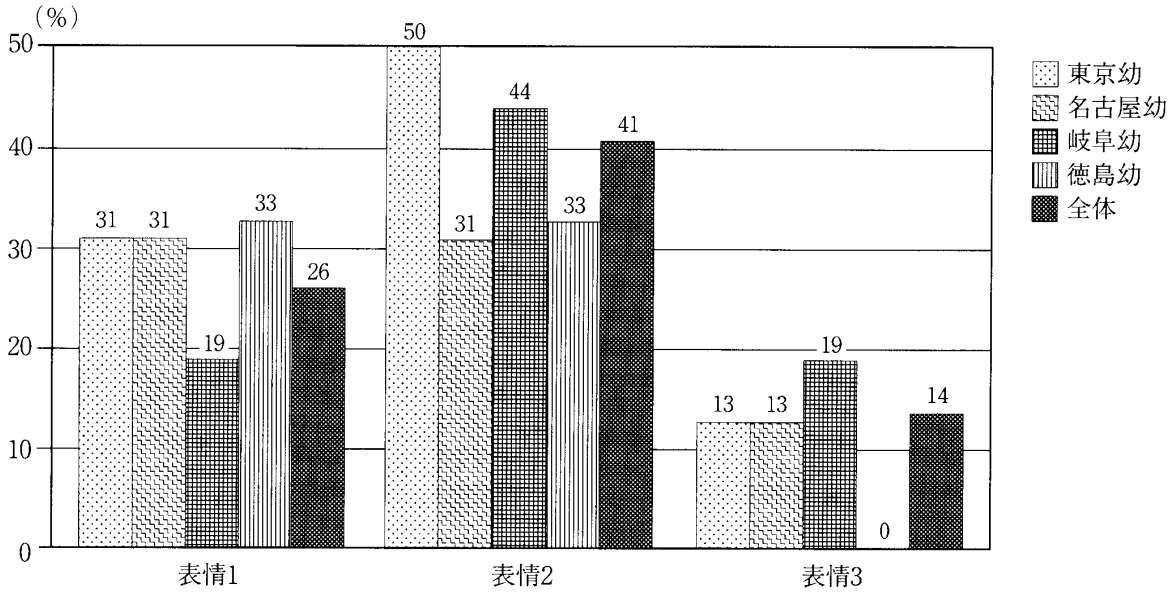

図11　面接で重要視する事項③「表情の話し方」：幼稚園

なく，第2位に選択する幼稚園が多く見られている。幼稚園の全体の81％がこの項目を選んでいる。東京においては，実に94％の幼稚園がこの「表情や話し方」を重視していることがわかる。

面接における表情や話し方は，保育においても反映されるものである。採用する側では保育者の資質としてこの点を重視していると思われる。

④「意欲的な取り組み」

この項目は第1位に選択されることの少ない項目であるが，トータルすると，③の「表情や話し方」についで2番目の選択の割合となっている。全体で大体6割の幼稚園で重要視している結果となっている。

保育者の成長を考えてみると，新人の最初から保育をうまくこなせる人の方が少ない。経験を積んでいく中で，保育者としても成長していくという過程をたどることになる。そのために必要なことは，意欲的に取り組んでいこうという姿勢であるということになる。採用試験にあたっても，この点が重要視されているということになるであろう。

⑤以下の項目については，全体数が2割を切っているので省略する。

以上のことから，面接にあたっては，これから保育者としての仕事をまず優先して園側は考えるために，健康や表情や話し方，意欲があるかといった事項が選択されているのである。他

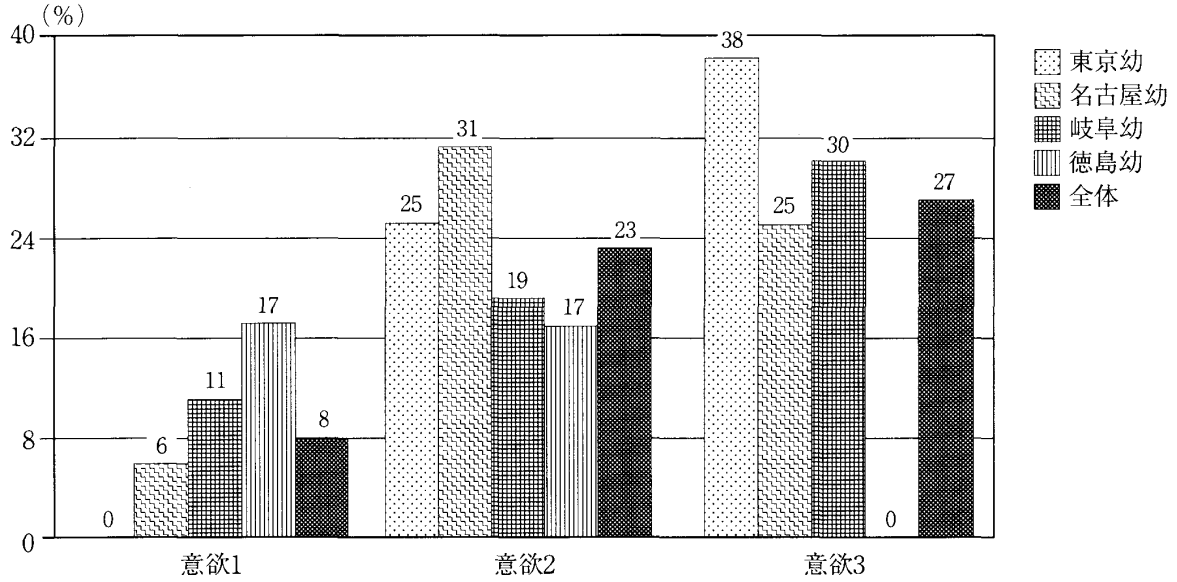

図12　面接で重要視する事項④「意欲的な取組」：幼稚園

方，学生時代に経験しているであろう，専門的な知識や考え方，あるいは充実した学生生活を送っているかということについては，あまり重視されておらず，保育者は園で実際の保育の経験を重ねていくなかで，成長していくという教師に対する教育観が伺われる。

地域の特徴として，先に挙げたように，徳島県では，健康よりも表情や話し方を重視する傾向があり，礼儀や言葉使いについては，面接においては考慮されていない。また，他地域において全く選択されていない奉仕や感謝の心を名古屋では重視していることとして選択されていることは，この地域の特徴としてあげられる。

(3) 保育所において求められる保育者像

保育所の調査結果は以下の通りである。(表5参照)

面接の形式は，幼稚園と同様に個人面接が9割でグループ面接が1割となっている。

面接で重要視する事項について次にあげる。第1位に上げられた事項別の割合は次の通りである。

全体の結果は次の通りである。

健康状態が47％で，最も高く，ついで，表情や話し方の22％，礼儀や言葉使いの12％となっている。幼稚園と同様に，健康を重視する傾向が保育所においてもみられる。

第2位に選ばれている項目は，表情や話し方の43％，ついで意欲的の21％となっている。

表5 保育所における面接内容

				東京N＝18		愛知N＝20		岐阜N＝24		徳島N＝28		全体N＝101	
				N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
面接なし				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面接あり	面接形態	個人面接		18	100	18	90	18	75	34	89	88	88
		グループ面接		0	0	2	10	3	13	4	11	9	9
		グループ討論方式		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重要視する事項	① 健康状態	1位	8	42	10	50	7	28	21	55	46	46
			2位	1	5	1	5	2	8	3	8	7	74
			3位	2	11	0	0	1	4	2	5	5	5
		② 礼儀や言葉使い	1位	3	16	3	15	3	12	3	8	12	12
			2位	3	16	2	10	3	12	5	13	13	13
			3位	2	11	4	20	3	12	1	3	10	10
		③ 表情や話し方	1位	4	21	4	20	7	28	6	16	21	21
			2位	8	42	9	45	10	40	15	39	42	42
			3位	2	11	3	15	1	4	6	16	12	12
		④ 意欲的な取り組	1位	2	11	1	5	2	8	3	8	8	8
			2位	2	11	6	30	5	20	7	18	20	20
			3位	3	16	8	40	8	32	13	34	32	32
		⑤ 専門的な知識	1位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2位	2	11	0	0	0	0	2	5	4	4
			3位	0	0	1	5	2	8	2	5	5	5
		⑥ 充実した学生生活	1位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			3位	2	11	1	5	1	4	2	5	6	6
		⑦ 奉仕の精神	1位	0	0	0	0	2	8	1	3	3	3
			2位	0	0	0	0	1	4	2	3	3	3
			3位	5	26	1	5	3	12	8	17	17	17
		⑧ その他	1位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2位	1	5	0	0	0	0	0	0	1	1
			3位	1	5	0	0	0	0	0	0	1	1

第3位に選ばれた項目は，意欲的が33％であり，ついで奉仕や感謝の心の17％となっている。この3位にみれらる奉仕や感謝の心は幼稚園の結果にはみられなかったもので，保育所特

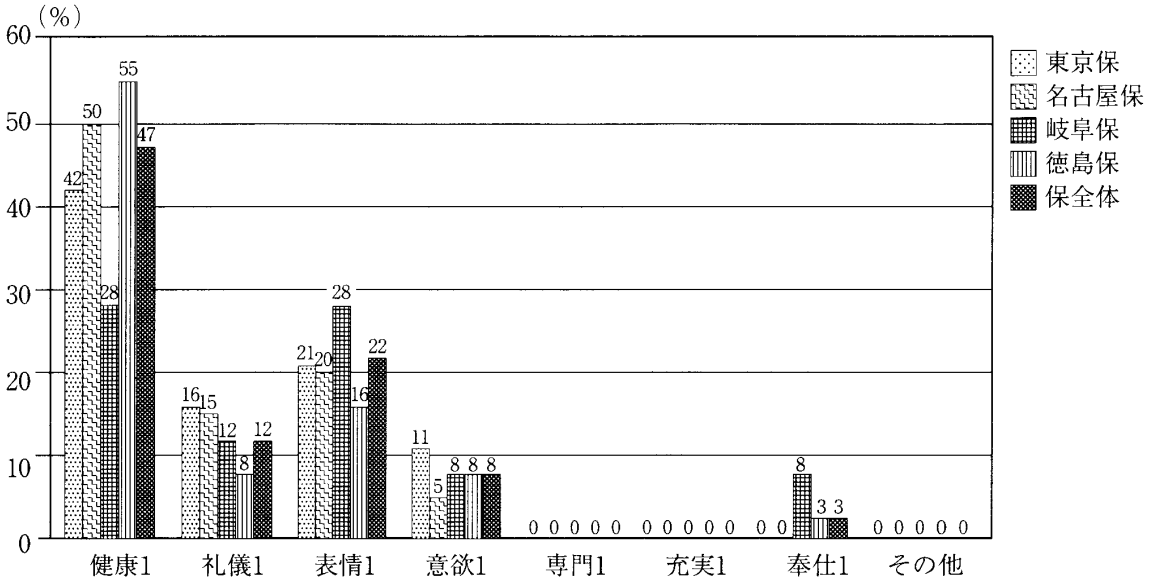

図13　面接で重要視する事項（第1位）保育所

有の傾向ということができる。

幼稚園の結果と同様に，健康状態を上げている地域が多くみられた。徳島では，全体の55％の保育所で健康状態を重視しており，ついで名古屋では50％，東京で42％，岐阜で28％となっている。保育者として働くためには健康が第一であるということで，これは幼稚園における面接で重要視される事項と同じ結果である。

ついで，「③表情や話し方が明るく生き生きしているか」という項目が選択されており，この傾向は全体に共通してみられるものである。ただその割合には地域による特徴が表れている。前述したように徳島は健康をまず第一に考慮して面接を行っているが，岐阜では，健康状態と表情や話し方を同じ割合で重要視していることがこの結果からわかる。

3番目に高い割合で選択されたのは，「②礼儀や言葉使いはよいか」という項目であるが，割合からみると，東京で16％，名古屋で15％，岐阜で12％，徳島で8％となっている。この項目は，幼稚園の結果には表れてこなかったものである。

選択肢の中で全く選ばれなかった項目は，東京，名古屋で⑤⑥⑦，岐阜，徳島で⑤⑥，となっている。

第2位に選ばれた事項について次にあげる。

どの地域においても，「③の表情や話し方が明るく生き生きしているか」が40％前後の保育所で選択されており，これは幼稚園の結果とも共通している。

名古屋は「④保育者として意欲的に取り組もうとしているか」という項目を30％の保育所

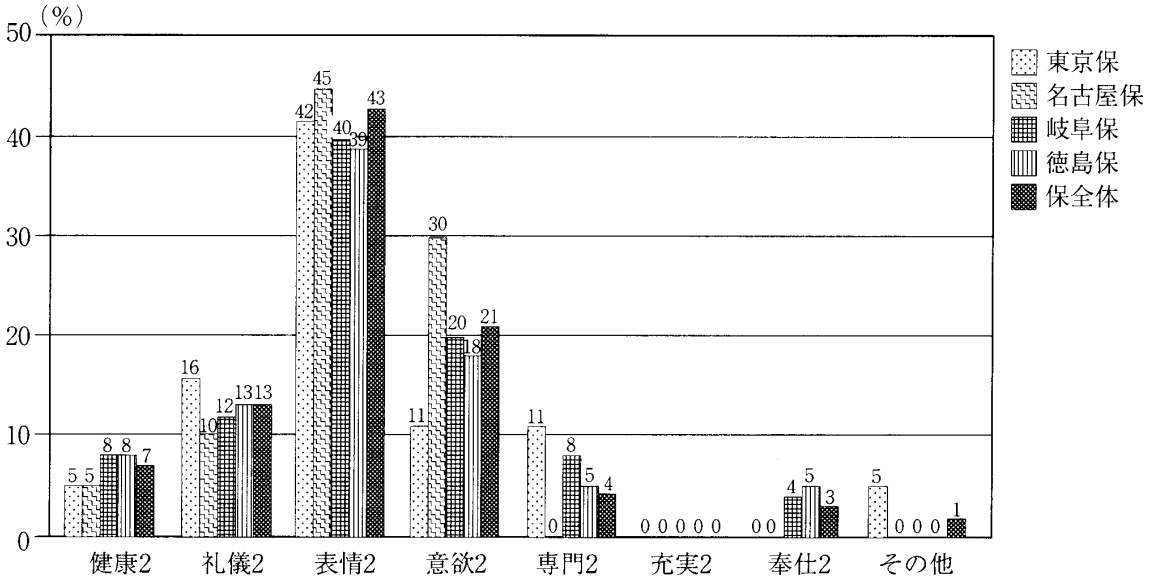

図14　面接で重要視する事項（第2位）保育所

で選択しており，意欲について重視していることがわかる。名古屋では，第1に選択されなかった⑤⑥⑦について，第2位でも全く選択されておらず，他の地域に比べるとそれが特徴的なことである。

第3位に選ばれた事項は次の通りである。

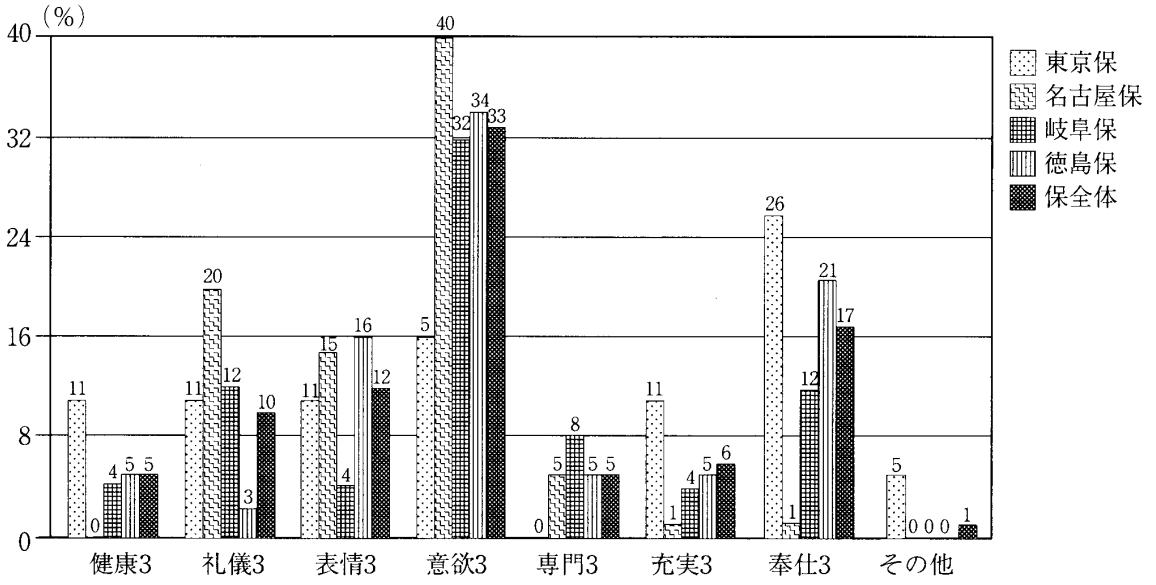

図15　面接で重要視する事項（3位）保育所

第3位の選択では,「意欲的な取り組み」が多くなっている。全体で1/3の幼稚園でこの項目を選択しているが,他の項目にも選択が分散されているのがこの第3位の選択の特徴であろう。

この項目を40％選択しているのは名古屋の保育所であり，岐阜，徳島は1/3程度の保育所の選択となっている。逆にこの項目の選択が最も低かったのは東京で16％となっている。東京は，この項目よりも「奉仕の精神や感謝の心」を26％の保育所で選んでおり，ついで「健康」「礼儀や言葉使い」「表情や話し方」「充実した学生生活」などに1割程度ずつ分散して選択している。

第1位，第2位に選択される項目については，全体的に同様の傾向を示していたが，第3位に選ばれた項目の割合をみてみると，それぞれ分散していることがわかる。

次に，項目ごとの第1～3位まで選択された合計の割合についてみていくことにする。

①「健康状態」

半数以上の保育所で，健康状態については重要視していることがわかる。また，幼稚園の結果同様に，第1位に選択している保育所は多いが，第2，3位にこの項目を選択する所は少なくなっている。保育所においては，乳幼児と接する時間の長さを考えると，健康状態は第一に求められる条件であろう。

②「礼儀や言葉使い」

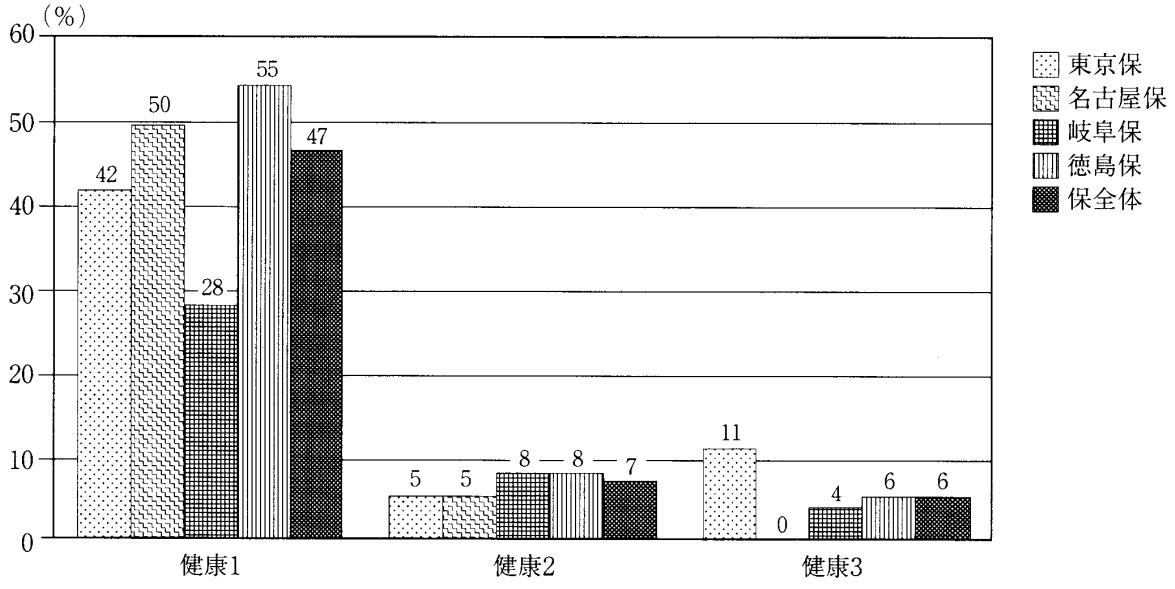

図16　面接で重要視する事項①「健康状態」

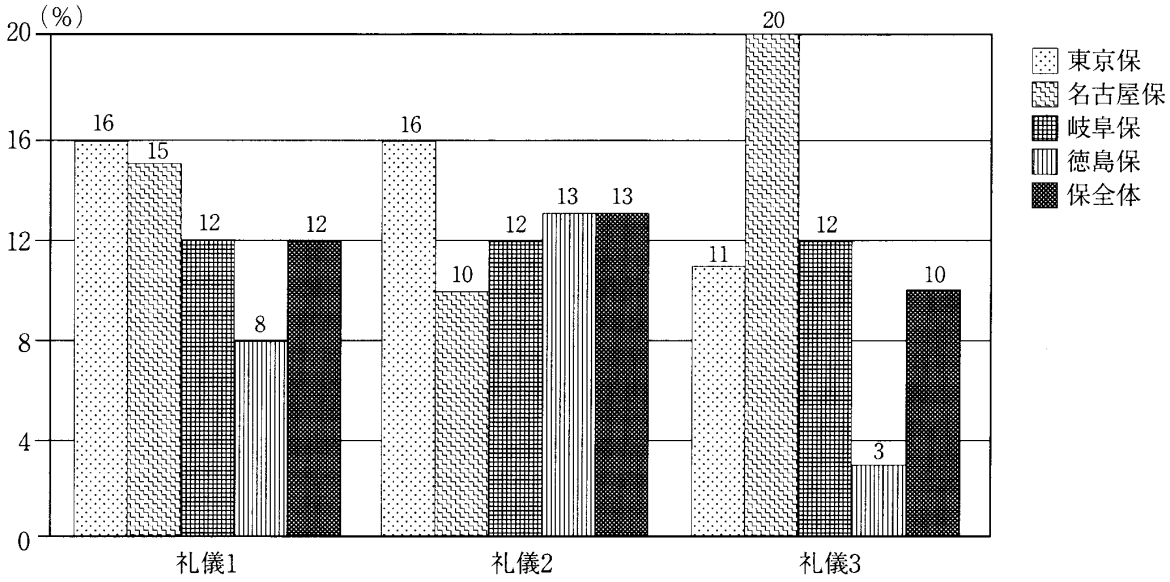

図17　面接で重要視する事項②「礼儀や言葉使い」

保育所全体で1/3の選択となっており，これは幼稚園に比べると低い割合となっている。幼稚園では低かった東京や名古屋が，幼稚園よりも高い割合を示し，逆に岐阜や徳島は幼稚園よりも低い割合となっている。

保育所での保育者の労働内容を考えると，子どもとの接触がその大部分の時間を占め，対大人との接触がそれほど重要視されていないことの表れではないかと考えられる。そのために，幼稚園に比べて低い割合になっているのではないだろうか。

③「表情や話し方」

第1～3位までのどこかで選択されている項目としては，この項目が一番であった。
全体で77％の保育所でこの項目を選択している。その選択のされ方をみると，各地域とも第2位に選択している。これも幼稚園の場合と同様に，保育者の資質として捉えていることから，このように高い選択の割合を示しているのであろう。

保育所という入所する乳幼児の年齢の幅が幼稚園よりも広く，その対応にあたっては，言葉のみならず，表情も重要なものとなってくる。そのために，この項目については，保育所で重要視されることになると思われる。

④「意欲的な取り組み」

これは前の③「表情や話し方」についで，多くの保育所で選択されている。その選択のされ

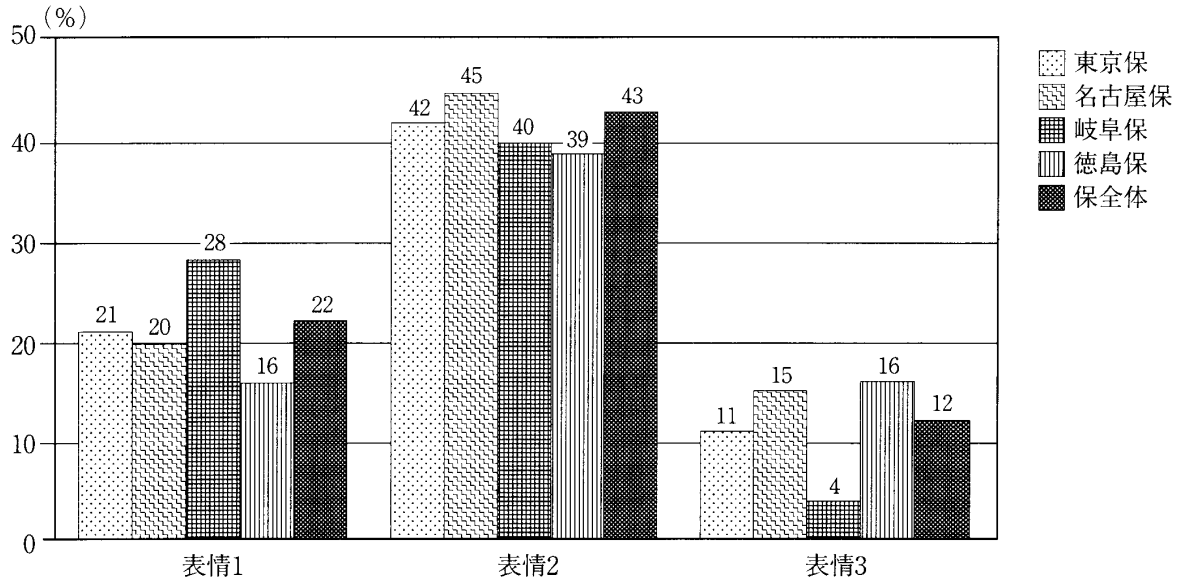

図18　面接で重要視する事項③「表情や話し方」

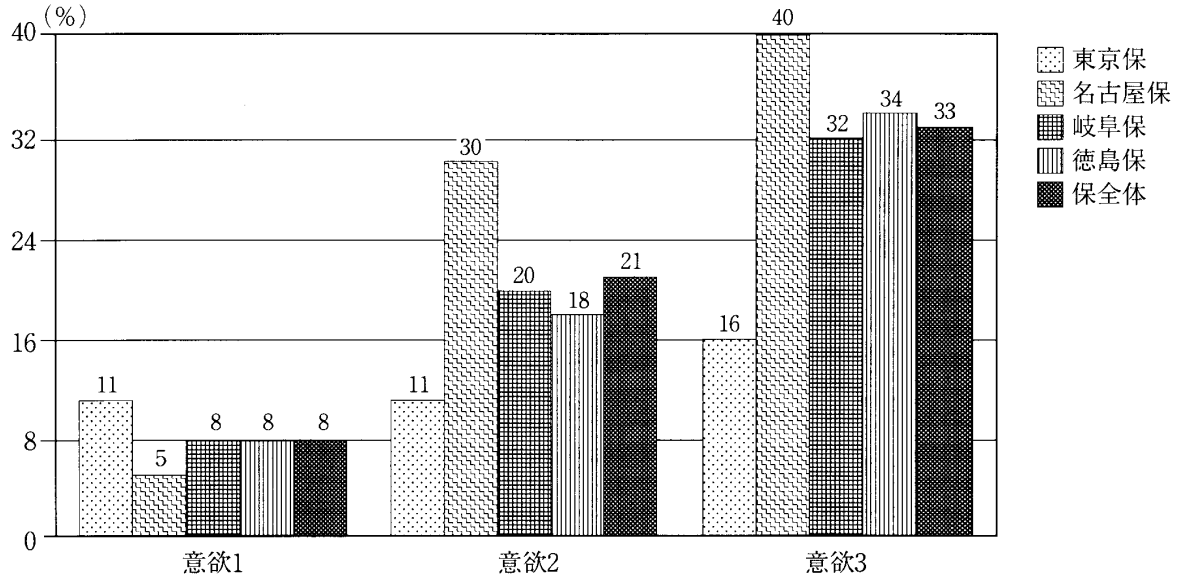

図19　面接で重要視する事項④「意欲的な取り組み」

方は，第3位で選択されているが，トータルすると，6割以上の保育所で重要視していることがわかる。ただ東京においては，38％という低い割合になっており，他の地域との開きがみられる。逆に名古屋の保育所では，75％という高い割合を示している。岐阜，徳島ともに，保育所の全体の平均に近い数値を示している。このことから，名古屋では意欲を重視し，東京では意欲はそれほど重視していないという保育所の現状がわかる。項目4以下は，選択されて

いる割合が低いので省略する。

(4) 幼稚園と保育所の比較

幼稚園と保育所を比較してみると，面接試験において求められているものは大体同じようなものであることがわかる。つまり，保育者の資質として求められるものは，施設の種類によってはあまり大きく変わるものではないということである。

まず第一に健康であることが求められ，ついで表情や話し方という保育者の資質に関わる部分，そして，保育者が成長していくための意欲的な取り組みというような構造がそこにはみいだすことができるのである。

この点から考えると，幼稚園や保育所に就職するにあたっては，それぞれの施設に対応した面接ではなく，保育者という1つの概念でくくられた資質やパーソナリティが必要となってくるということがいえるであろう。

3. まとめ

現在の日本の社会は，大きく動いている。幼児教育に関係したことをみても，少子化の傾向には拍車がかかり，幼児虐待や育児を放棄してしまう母親，核家族化の進行で，孤立して育児不安を感じながらも，相談する相手もなく思い悩む母親の増加なども社会現象としてみられる。また，女性の社会進出により，育児が家庭から施設へという流れが大きくなりつつある。

幼稚園や保育所は，それぞれが変革の時を迎え，その教育課程や保育内容などが新しくなろうとしている。その上少ない子どもをこの両施設で獲得競争をしていかなければならないという状況も生まれてきている。そのために，保育サービスの充実はますます盛んに行われるであろうし，それに対応して求められる保育者像というのはますます多様化していくであろう。

今回の調査結果からみると，求められる保育者像は健康で，明るく，意欲的な人というものであったが，専門的な知識や充実した学生生活を送っているかというような点は，ほとんど重視されていない点は注目していかなければならない問題であろう。確かに，保育者の成長は，養成段階で終わるものではない。保育現場に入って経験を積むことにより，同僚や先輩，そして子どもたちによって成長を遂げていくものである。しかし，養成段階においても，保育者として身に付けていかなければならない資質や能力などについては，その向上をはかるための方策を検討していく必要を感じる。

付　記

本研究は全国保母養成協議会の1997年度の研究助成を受けて行った「就職試験を通してみる求められる保育者像と養成教育の在り方」（保坂恵美代表）の一部である。